

# おいしい笑顔がみたいから

## —伝説の下妻金豚—

### 倉持ピッグファーム株式会社（養豚経営・茨城県下妻市）

#### 地域の概要

下妻市は、茨城県南西部、東京から約60km圏に位置し、緑と水に恵まれた田園都市で、総面積は80.88平方キロメートルである。

農業の状況は、水稻を軸に、果樹・野菜・畜産を組み合わせた複合経営が主体となっており、主に、北部地区は梨、南西部はスイカ、白菜等の野菜の栽培が盛んであり、南東部地区では、カントリーエレベーターを核とした土地利用型農業が展開されている。

養豚においては、かつて日本一の飼養頭数があり、現在でも約4万頭が飼養される県内有数の産地である。近年は、環境対策として、



(写真1) 家族（左から長男 朝成さん、代表 倉持勝さん、次男 曜成さん）

(表1) 経営・活動の推移

年次	作目構成	飼養頭数	飼料作付面積	経営・活動の内容
昭和56年	養豚経営	種豚生産 種雌豚20頭	—	・茨城県立下妻第一高等学校 卒業
昭和58年	養豚経営	種豚生産・肉豚生産 種雌豚80頭	—	・茨城県立農業大学校 卒業 ・家業である養豚業に就農
平成2年	養豚経営	種豚生産・肉豚生産 種雌豚100頭	—	・茨城県青年農業士 認定
平成20年	養豚経営	種豚生産・肉豚生産 種雌豚200頭	—	
平成21年5月	養豚経営	種豚生産・肉豚生産 種雌豚200頭	—	・倉持ピッグファーム(株) 設立
平成26年	養豚経営	種豚生産・肉豚生産 種雌豚200頭	—	・6次産業化総合化計画 認定
平成28年4月	養豚経営	種豚生産・肉豚生産・加工販売 種雌豚200頭	—	・食肉加工・直売所 「ぶうーぶー～豚職人工房～」開業

(表2) 経営実績（令和3年度）

経営の概要	労働力員数 (畜産・2000hr換算)	家族構成員 従業員	2.0人 3.0人	
	種雌豚平均飼養頭数		200.0頭	
	肥育豚平均飼養頭数		1,983.0頭	
	年間子豚出荷頭数		0頭	
	年間肉豚出荷頭数		4,400頭	
収益性	所得率		5.2%	
	種雌豚1頭当たり生産費用		1,253,267円	
生産性	繁殖	種雌豚1頭当たり年間平均分娩回数	2.30回	
		1腹当たり分娩子豚頭数	10.0頭	
		種雌豚1頭当たり年間分娩子豚頭数	23.0頭	
		1腹当たり哺乳開始子豚頭数	9.5頭	
		種雌豚1頭当たり年間哺乳開始子豚頭数	21.8頭	
		1腹当たり離乳子豚頭数	9.0頭	
		種雌豚1頭当たり年間離乳子豚頭数	20.7頭	
	肥育	種雌豚1頭当たり年間出荷頭数(肉豚)	20.5頭	
		肥育豚事故率(離乳時からの事故率)	4.3%	
		肥育開始時	日齢	70.0日
			体重	30.0kg
		肉豚出荷時	日齢	180日
			体重	118.0kg
		平均肥育日数		110.0日
		出荷肉豚1頭1日当たり増体重		0.800kg
		トータル飼料要求率		—
		肥育豚飼料要求率		—
		枝肉重量		78.0kg
		販売価格	肉豚1頭当たり平均価格	—円
			枝肉1kg当たり平均価格	—円
	枝肉規格「上」以上適合率			45.0%

悪臭・ハエ等の対策に取り組み、「住農混在化」の進んだ地域の市民生活に配慮した畜産経営の確立を目指している。

## 経営管理・生産技術の特色

親子三代に渡り養豚業を行っている。先代は種豚生産を行い、全日本豚共進会に3期連続で入賞を果たす成績を残している。現在、代表取締役の2代目倉持勝さんは、一貫経営へと経営を転換すると共に、規模拡大を行ってきた。3代目は長男（朝成さん）が農場長として生産部門を担当し、次男（暁成さん）は店長として加工・販売部門を担当している。

現在、生産農場は勝さん、長男を含め5名で管理、加工・直売所は勝さん、次男とパート10名含めた16名で運営を行っている。

勝さんは先代の種豚生産から一貫経営へ転換の際の畜舎改築については、資金調達がままならない中でのスタートであったため、基礎工事などは自身で行うなどし、経費削減に取組みつつ行った。また、その後の規模拡大においては、資金計画をしっかりと立てたのち、少しづつ規模拡大を行ってきた。

加工・直売所建設にあたっては、当初計画していた1／2の補助事業が大幅に変更され3割補助になったが、整備予定だった加工機



(写真2) 食肉加工・直売所



(写真3) 精肉



(写真4) ハム



(写真5) ソーセージ



(写真6) 総菜

械等を見直す経費削減に取組みつつも、「お客様のおいしい笑顔がみたいから」の信念の基、前進あるのみと自己負担増となっても完成させた。

#### 【経営改善のための努力】

種豚生産のみでの経営に対する不安から一貫経営に経営を転換し、また、海外依存度の高い配合飼料の価格高騰に対する不安から飼料用米の使用を開始した。そして、季節的変動の大きな市場価格頼みの肉豚販売だけで、

会社を運営できるかの不安から、会社全体の売上高に対する飼料代の比率を低減させるため加工・販売部門を設置した。

#### 【地域・関係者と連携した経営改善の取組み】

平成26年に6次産業化総合化事業計画の認定を受け、平成27年に6次産業化ネットワーク活動事業を活用し、平成28年4月に食肉加工・直売所「ぶうーぶー～豚職人工房～」を開業した。

豚肉加工品は、下妻市のふるさと納税返礼



(写真7) ストール舎



(写真8) 分娩房



(写真9) 肥育豚

品としても活用されると共に、地元企業との連携も積極的に行っている。自社銘柄豚「伝説の下妻金豚」を使用したカレーパンを地元のパン屋さんが販売、地元醸造店の大吟醸の酒粕を使用したコラボ商品を開発するなど精力的な活動を行っている。

現在、農場HACCP認証を取得すべく、動物医薬品メーカーの農場HACCP指導員、畜産協会の指導員と共にHACCP会議を月1回のペースで開催し、構築に取り組んでいる。

#### 【販売戦略】

直売所では、自社生産の肉豚の約2割を販売している。無駄なく全ての部位を販売するために、精肉で販売しにくい部位はベーコンやソーセージ等の加工品や総菜で使用している。當時50種類以上の商品が店頭に並んでいる。

新型コロナウイルス感染拡大の影響による緊急事態宣言や外出の自粛など、直売所のみでの売上げ減少に対応すべく、ECサイトによるネット販売も開始した。某有名サイトにおいて部門売上No.1になったこともある。コロナの影響は大分落ち着き、来店者数も回復基調となるも、ネット販売においてもリピーターが付き、開店当時の3倍程度の売上げが毎月確保できるようになっている。引き続き、ネット販売にも力をいれるため、配達会社とも価格交渉等を行い配送料の低減に努

めている。

#### 【先進機器の導入】

豚が快適に過ごせるように豚舎内の環境を管理している。

設定された温度より気温が上下すると自動で開閉する自動カーテンと、インバータ制御の換気ファンによる換気で舎内温度を、タイマー運転及びミスト装置で舎内湿度を管理している。

農場内における全ての機械、部品については常に交換、修理用をストックしている。農場において、災害や機械の突然の故障により農場運営に支障が出ないように、その際の対処法として、いつ、何があっても、常に対応できるよう準備してある。非常用電源も農場に2台(25Kva、10kva)、加工・販売所にも1台(50kva)設置してある。

#### 【高品質化】

消費者に好まれる肉質・味を持った肉豚を生産するために、自ら種豚の育種改良を行なっている。

健康な子豚に育てるために、幼豚期の飼料に独自のプレミックスを給与し、体調管理を徹底し、生後70日以降に動物性飼料は一切与えず、米を中心とした植物性飼料を給与している。

飼料用米の利用は積極的で、40%の飼料用



(写真10) 大ヨークシャー雄

米が配合されている肥育用飼料に、自身が購入している飼料用米を製粉し、上乗せで添加している。都合、50%以上の飼料用米が配合された飼料が仕上げ期に使用されている。

肉豚は、自社銘柄豚「伝説の下妻金豚」として、出荷先の東京食肉市場においても高く評価されている。

## 地域に対する貢献

### 【畜産環境対策】

生産農場は繁殖を中心とした第1農場と、肥育を中心とした第2農場がある。

第1農場で排出される家畜排せつ物は、固体物、液状物それぞれ1次処理し、その後第2農場の家畜排せつ物と1次処理した第1農場の排せつ物を合わせて、固体分については縦型コンポスト2台でたい肥処理している。



(写真12) 縦型コンポスト



(写真11) 飼料用米

生産されたい肥はダンプによるバラ販売と、袋詰め(15kg/袋)により販売を行なっている。液状物については浄化処理施設を用いて処理し、浄化処理した液状物は河川放流している。放流する処理水は毎月、水質検査を実施し、国土交通省へ報告している。

常に予備・余裕をもって経営を行うスタンスは、家畜排せつ物の処理も同様であり、製品たい肥をストックするための肥舎も常に余裕がある状態となるよう設置されている。

### 【耕畜連携等の地域産業への貢献】

農場で生産されたい肥のほとんどは、袋詰めし、農場の一画に設置されている無人販売所で販売している。時期によっては、軽トラックで行列が出来るほどで、近隣の耕種農家、家庭菜園で利用されており、地域の耕畜連携に貢献している。



(写真13) 製品たい肥



(写真14) たい肥販売所



(写真15) たい肥販売所の待ち行列

## 女性の活躍・働きやすい職場環境づくりの取組み

### 【女性の活躍】

農場で1名、直売所で1名の女性従業員と10名のパートを雇用。農場、直売所それぞれで就業規則が整備されている。

農場の女性従業員は繁殖分娩部門の主要な業務を任せられている。また、農場HACCP構築のチーム員としても活躍中である。直売所の女性従業員はレジでの接客のほか、加工品の製造、商品・備品の在庫管理から顧客データ管理業務を行っている。

今後は役職へ登用するなどを検討している。

### 【働きやすい職場づくりの取組み】

農場では、女性専用の更衣室・休憩室・トイレを設置している。

## 将来の方向

### 【次世代への継承】

長男の担当する生産農場、次男の担当する加工・直売所においてそれが一人前の仕事ができる様、職場環境を整備し、次世代への継承がスムーズに行われるよう三人四脚で会社を運営していく。

### 【今後の経営計画】

販売店舗2号店の出店計画がある。常に良い豚肉を選抜・加工し、直売所で使用するためには、もう少し生産農場の拡大が必要で、種雌豚300頭までに規模拡大することも検討中である。しかし、現在の、飼料高、資材高の状況では実行する時期ではないと判断しており、農場成績の向上や直売所での売上げ向上に向けて、今できることをしっかりと行い、将来への準備期間として経営を行う計画である。